

めざす児童生徒像

①進んで学ぶ子
→未来の創り手となるために必要な確かな資質・能力を身に付けるために、主体的に学び、考えを伝え合い、学びを深めることができる子。 (学ぶ喜びを知る子 学びを活かす子)
②仲良く助け合う子
→人も自分も大切にできるように、集団づくりを通して、仲間と関わり合いながら、互いのよさを認め合い高め合える子。
③明るく元気な子
→たくましい心身の育成のために、自分の健康や命を大切に、前向きに考え、何事にも根気よくチャレンジする子。

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間			年度末			達成状況の分析	改善策
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)				
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者		
(学校で設定)	学級活動・児童会活動 児童アンケート③の結果を90%以上にする		① 学級や学校がより良くなるように考えて行動していますか		89			95.9		どの項目においても、中間時より肯定的に答える児童が多かった。学級目標をもとにして行事のめあてを立ててきたことで、子どもたちの学級目標に掲げた姿に向かう意識も強くなったのではないかと考える。	3学期には、子どもたちが学級目標に掲げた姿になれたと自信をもって言えるよう、子どもたちががんばりや学級目標に向かって取り組んでいる姿を価値づけていく。
			② 学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがありますか		95.9			98.6			
			③ 学級目標を意識して活動しましたか		93.2			95.9			
			集計								
重点項目	業務の改善 働き方や石川県共通		① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	92.9			100		「時間外勤務の削減に努めている」「組織の中で役割をもち、工夫して取り組んでいる」の項目では、全職員が肯定的な回答であった。主任層を中心に、相談し合い、情報共有や取組内容の確認を行い、組織的に業務の遂行ができた。自分の意見が反映されるので、やりがいを感じる職員が多かったように思う。	来年度に向けて、校務分掌を見直し、取組内容を焦点化させ、職員一人一人が役割意識をもって、業務に推進できるように努める。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100			100				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)			達成状況の分析	改善策	
				数値・アンケート結果 (%)			数値・アンケート結果 (%)					
				教員	児童生徒	保護者	教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	①②の肯定的回答の割合が 中間・・・80% 年度末・・・90%	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	92.3			100			2学期は読むことウを重点単元とし、共通実践として各学年で取り組んだ。2学期末には、実践交流とそこから見えた課題を出し合い、今後(次年度)重点として取り組んでいく内容について確認することができた。	今年度の取組から、来年度は読むこと領域を中心に学校研究を進める。また、学んだことから自分の考えをもつことの実践を進めていきたい。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100			100					
			集計									
			③ 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	84.6	90.4	5.8	100	91.8	-8.2			
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	①④⑤の児童生徒の肯定的回答の割合が、 中間・・・75% 年度末・・・90% ⑦⑧の教師の肯定的回答の割合が 中間・・・75% 年度末・・・90%	② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	84.6	84.9	0.3	100	90.4	-9.6	どの項目も肯定的評価であった。教師と児童の評価に差があるものもあったが、校内研修や共通実践を通して、前向きな学びにつながっていると感じた。	2学期の取組から出た課題(自分の考えをもつ、困ったときの対処方法)を3学期の学び集会で児童と共有し、児童の学ぶ意欲をさらに高めていきたい。また、来年度に向けて6つの重点項目について具体的な取組を考えていく。
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	84.6	84.9	0.3	72.7	95.9	23.2		
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	61.5	87.7	26.2	81.8	93.2	11.4		
				⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	76.9	87.7	10.8	90.9	87.7	-3.2		
				⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	84.6	69.9	-14.7	100	93.2	-6.8		
				⑦ 教師は、児童が主体的に学習に取り組めるよう、単元構想を工夫している。(単元構想シートの活用)	84.6			100		-100		
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	92.3			100		①②③ともに目標値を達成した。 ①・・・文化祭で全学年が教科の学習を生かした出し物を考えたこと、教科の学習でも目的意識をもった学習活動にすることで達成の要因であると考えられる。 ②③・・・定期的に取り組むを振り返る機会をもっているからだと考えられる。 ④・・・小中連携で交換した情報を職員間でも共有できたからだと考えられる。	年度末に、総合的な学習を中心にカリキュラムマップの見直しを行い、さらに効果的な教育課程を作りたい。		
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	92.3			100					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0			100					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	69.2			100					
学習方法		①「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。」 ②「自分のペースで理解しながら学習を進めるときに、学習用端末を使っている。」 肯定的回答の割合が、 中間・・・75% 年度末・・・90%	① 児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている。	75	90.5	15.5	100	92.7	-7.3	2学期は学習ルームを作り、異学年で同時に学習するようになった。学習内容に応じて、個別学習や一斉学習を柔軟に取り入れることができ、児童の学びの意欲が高まったと考えられる。また、学習者用端末を使って、他者参照をする機会が増え、学習に不安を感じている児童の助けとなっていた。	異学年で同じ場所で学習することは、児童にとって良い刺激となっているので、来年度も継続して行っていく。また、学習者用端末の活用を含め、児童が意欲的に学びに向かうよう指導を工夫していきたい。	
			② 児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用している。	84.6	68.5	-16.1	100	91.8	-8.2			
			集計									